

# 総務委員会

## 学校図書館の 地域住民への開放

〈岐阜県山県市〉

### 山県市立桜尾小学校図書館

山県市立桜尾小学校は、岐阜市の北、岐阜駅からバスで約40分の距離にある。訪れた時、学校は黄



▲学年ごとの推薦図書などがわかりやすく展示されている

金色の稲穂に囲まれていた。

古くからの歴史ある山県市は、明智光秀ゆかりの地を名乗っていて、戦国武将の活躍した時代に思いを馳せる土地でもある。今は、空の青と山の緑の中で、金属加工業や果樹農業などの産業を中心に2万7千人が暮らす市である。山県市は、公立小中学校として全国で初めてコミュニティ型図書館ウェブサービス「リブライズ」を活用した蔵書のデータベース化、ネットワーク化を進めてきた。市内の蔵書約9万5千冊が「リブライズ」に登録されている。



▲地域の方へのお薦めコーナー「桜人コーナー」

### 学校・家庭・地域が一体に

桜尾小学校ではこの導入の機を活かして、学校運営協議会が中心となり地域住民へ学校図書館開放の取組みを行っている。

学校が開いている時間内であれば、図書館で閲覧や貸し出しが可能である。

山下敦子校長は「親が子どもに

読み聞かせたい本や、大人が読んでも意外に面白い本もある。最近では安全の面から学校に気軽に立ち入りできなくなっているが、本を介して地域との繋がりを作りたい」と話していた。

地域の方の利用も徐々に増えてきているのだが、保護者以外の市民が図書館を利用するのは、呼びかけだけでは難しいと感じた。

### SDGs未来都市に学ぶ

〈愛知県豊田市〉

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」という意味である。国連192か国が全会一致で決定した国際目標。2030年達成に向けて、世界的な共通課題に対して17の大きな目標を設定。目標達成のための具体的な項目を169のターゲットとしている。

SDGsは、全ての国と地域が取り組む地球版総合計画のよくなるもの。日本でも先進地域は

積極的に推進している。その中の一つとして、「SDGs未来都市」に2018年6月に選定された豊田市の「とよたエコフルタウン」を訪問した。

### 豊田市と羽村市の共通点

視察先を選定した理由は、羽村市との共通点があったこと。

豊田市は、2009年に環境モデル都市に選定され、2010年には、次世代エネルギー・社会システム実証地域にも選定された環境都市。羽村市もまた、太陽光発電システムにより電気バス「はむらん」を走らせる「AZEMSプロジェクト」を

## 若者議会の取組み

〈愛知県新城市〉

### 若者が活躍できるまち

愛知県東部に位置する新城市において、平成25年の市長選で3選を果たした穂積市長の公約は「若者が活躍するまちをめざす」であった。翌年12月には全国初の若者条例・若者議会条例が制定された。

若者条例では若者政策の策定、若者議会の設置が定められ、若者が活躍するまちづくりの推進に資する提案には市の予算が1千万円を限度に計上される。

若者議会は市長の諮問機関であり、委員は20人以内、概ね16歳から29歳で市内在住・在学・在勤の若者



▲第2期の若者議会のメンバー

### 新城市若者議会の仕組み



で構成される。委員任期は1年、委員の身分は非常勤特別職で報酬と交通費が支給される。今年度で5期目となるが、これまでに「図書館リノベーション事業」「消防団加入促進事業」「教育ブランドディング事業」等々、多彩な提案が

予算化、実施された。毎年11月に市長に政策答申し、次年度予算に反映させている。今回の視察研修の説明員は、若者議会OBの竹下修平市議会

推進する等、環境に配慮している先進都市でもある。

### 豊田市の取組み

水素燃料自動車等の低炭素交通システム、小型二人乗り電動自転車システム等々、SDGsとモビリティを掛け合わせた取組みを進める中で、まずは職員にSDGs



▲SDGsの17の目標をわかりやすく解説したボード



▲水素で走る燃料電池バス

の意識を浸透すべく啓発活動をしているとのことだった。

羽村市も、教育・子育て、まちづくりなどさまざまな視点からSDGsの理念をもった施策を提案していきたい。

成は我々の責務である事を強く感じた。

議員であった。IT関連の仕事を辞め、故郷のために働く彼の熱意を感じ、私たちも「世代のリーダー」の大切さを痛感した。羽村市においても意欲と情熱があり、故郷を愛する若者の育

# 経済委員会

## 操業半世紀

### 羽村の発展にも貢献

#### 〈日野自動車株式会社羽村工場〉

日野自動車は、1942年設立。日野、羽村、新田、古河に主要4工場があり、売上高は約2兆円、従業員は3万4千人（連結）という。

羽村工場は1963年操業開始で、面積75万㎡。従業員数は4400人、



▲羽村工場の全景

産業の立地は地域経済活性化の柱です。「職住近接」を掲げ、都内でも有数の製造品出荷額を誇る羽村市。その代表的企業である日野自動車株式会社羽村工場と、最新設備の茨城県・古河工場を視察、今後の展開をうかがいました。

羽村市の市街地面積や就業人口の約1割にあたる。1日の平均生産台数はトヨタSUV車や小型トラック等800台ほどで、年間約18万台。ここ数年は海外市場を中心に販売を拡大しており、2018年度は過去最高の販売台数だった。

#### トヨタ受託車の生産ラインを見学

SUV車「ランドクルーザープラド」「FJクルーザー」の生産ラインは連続2直交代制で、従業員平均年齢は34歳。ボディの溶接、塗装工程のほとんどは無人のオートメーション化が図られている。別ラインでエンジンやシートなどを取り付けられたシャーシにボディを載せ、素早く工員が内装を整備。ボディ形状や色が多数混在しても、効率よく生産されるシステムで、見ていると2分に1台くらいの速さで完成だ。工場内に部品の過剰在庫はなく、無人の運搬台車が必

要部品を運び、騒音も少ない。3か月前から生産計画をたて、必要部品や人員などを計算。1か月前に確定して発注されるという。無駄を省くトヨタ生産方式を取り入れて生産性を高め、厳格な品質管理のもと高品質・高性能の車両を効率よく生産する。



▲2トントラック生産ライン



▲ダカールラリー参戦車（羽村市産業祭）

#### 社会貢献活動にも積極的

地元へのCSR／社会貢献活動にも積極的だ。敷地内での桜まつり、地域の夏祭りや産業祭への参加。自然環境保護のボランティア活動にも加わる。また、東京唯一の自動車生産工場として小学校5年生の社会科見学を年間150校、1万1千人も受け入れている。一般見学も国内外から3500人が訪れるというから羽村市の認知度アップにも貢献されている。ますますの発展を期待したい。

■日野自動車の工場・施設



▲古河工場の全景

環境配慮  
最新鋭の製造ライン

〈日野自動車株式会社古河工場〉

日野自動車・古河工場は茨城県古河市郊外に85万㎡の広大な敷地を構え、2017年に本格

稼働した。日野、羽村、新田に次ぐ4番目の工場で、圏央道の開通で本社から1時間半以内の距離も好都合だった。現在、従業員約2500人、地元採用も推進しているが、多くは日野、羽村工場からの異動者である。工場長も23年間羽村工場での勤務だったという。

少量、多品種を1つのラインで生産

日野のトラックやバスは、世界80を超える国と地域で活躍している。その中核が古河工場で、現在、大型と中型のトラックを1日当たり180台、年間4万5千台の生産能力を持つ。見学した完成車組立工場は、外光も取り入れ明るく



▲1レーンで多品種を生産する



▲社会貢献活動の一つ  
子どもたちの交通安全教室

て広い。日野工場では3本あった組立ラインを1本の共有ラインに集約。異なる車種や台数を、モジュール（規格）化することで素早く完成する最先端技術だ。最後の検査工程は人による入念なチェック。さまざまな型式や色のトラックがおよそ5分ごとに完成していく工法に目を奪われた。また、海外のノックダウン（現地組立）工場への部品供給の中心として、マザー工場の役割もあるという。地元雇用だけでなく、社会貢献活動での地域活性化効果も大きい。近隣小学生への環境学習や交通安全教室、市内のイベントへの参加・協賛、行政や町内会との懇談も行い相互協力を図っているという。

羽村、古河工場それぞれの意味

日野工場が古河市に移転することをうけて、「羽村工場も移転か」と心配した経緯があった。しかし両工場の視察で、良質な工場用水に恵まれた羽村、広大な敷地の古河とそれぞれの特長や、生産体制の位置づけの違いを知った。工場のある両市は、災害時相互応援協定を結び、相互の防災訓練や産業祭にも参加している。古河工場のコンセプトは「3つのやさしさ」だ。「地球環境にやさしい」「働く人にやさしい」「地域にやさしい」は自動車工場の将来像を示しているのかもしれない。



▲古河工場で説明を受ける

# 厚生委員会

## 認知症対策について

〈愛知県大府市〉

### 認知症支援に対する取組み

全国的に高齢化が進展する中、認知症になる方も増えている現状で、国においても認知症対策基本法の整備を進めている。団塊の世代が75歳以上になり、5人に1人が後期高齢者となる2025年には、認知症の方は700万人にもなると予想されている。早急に対策の強化が必要である。羽村市においても例外ではない。しかし人生100年時代、認知症になっても尊厳をもっていつまでも元気で過ごしたいもの。そこで、先進的に対策を進めている愛知県大府市を訪問し、各種施策を学んできた。

### 全国初となる条例を制定

大府市は産業構造等の要因もあり、



▲大府市の取組みについて説明を受ける



高齢化率は低く、認知症有病率も高くはなかった。しかし、平成19年市内で発生した認知症による鉄道事故をきっかけに、県のモデル事業として各種対策を推進。

大きな4本柱として、①普及啓発・②容態に応じた医療介護の提供・連携の推進、③見守り・地域支援体制づくり、④認知症の本人・家族への支援を実施。現在認知症サポートターの養成や集える場所のカフェ、事業所との連携、GPS端末サービスなどは多くの自治体の実施しているところだが、特筆すべきは全国初となる「認知症に対

する不安のないまちづくり推進条例」の制定で対策を大きく前進させたことである。また、個人賠償責任保険に市が加入することで、法律上被る損害を無償で補償。また、行方不明者捜索訓練を自治区単位で実施。医師会・歯科医師会・薬剤師会及び薬品企業との連携協定の締結など先進的に進めている。それらをケーブルテレビや広報等で周知して多くの方々と共に有していることも見逃すことはできない。これらの施策を展開することで、認知症になっても安心して住み続けることができることがうかがえた。

最後に大府市では「徘徊」とい

う言葉は使わないとのこと。本人への尊重や配慮、また認知症に対する深い思いを感じることができ、大変有意義な視察となった。

### 地域の中にあるみんなの居場所

その他に、介護予防として高齢者等の集いの場となっている「常設サロン」も視察した。週4日以上1日4時間以上を個人宅や空き家、空き店舗、集会所等を活用して開催する事を条件に、市が補助している。居場所、ふれあいの場所として大変賑わっていた。その他に月1回以上のふれあいサロンも市内100か所以上で開催されていた。

### 常設サロン ふれあいの居場所 長草横丁



ボランティアスタッフが作る手作りの食事(500円)

常設サロンは、地域住民の居場所であり、誰もが気軽に立ち寄ることができます。食事・喫茶や趣味の活動などを行うことができます。

## いきいき

### 元気推進事業について

#### 〈愛知県東海市〉

#### 東海市しあわせ村とは

東海市は昭和44年に上野町と横須賀町が合併し、愛知県で23番目の市として誕生。中部圏最大の鉄鋼基地として臨海工業地帯を形成している一方、県内でも有数な生産量を誇る洋ランや全国有数のフキの産地という都市近郊農業地帯を形成している。面積は約43平方キロメートルで、人口は平成31年4月で約11万5千人。

東海市しあわせ村は、福祉サービス、健康増進、生きがいづくり



▲東海市しあわせ村(東海市ウェブサイトより)

の拠点として保健福祉センターや健康ふれあい交流館などが整備された複合施設であり、指定管理者が管理・運営している。

#### 「いきいき元気推進事業」

#### のはじまりは

愛知県の市区町村別の平均寿命が公表されたところ、東海市の順位がとても低く、また、特定健康診査受診率も低かった。市民の健康意識の低さを改善するため、健康分野だけでなく都市基盤や生涯学習・生涯スポーツなどさまざまな分野からの連携を図りながら2年間の準備期間を経て「いきいき元気推進事業」を平成23年度から開始した。



▲健康ふれあい交流館のトレーニング室を利用する市民の皆さん

#### 生きがいを持ち

#### 健康に暮らすために

「生きがいがあり健康なまち東海市」を目指し、市独自の取り組みを行い、市民一人ひとりが生きがいを持ち健康に暮らすことができる生活環境の整備を進めている。

#### 独自の取り組み

- 1 「運動・食生活応援メニュー」の提供：健康診断の結果をもとに、一人ひとりにあったウォーキングペースやエネルギー量等の目安がわかるメニューを提供。
- 2 「いきいき元気メニュー」の提供：市内飲食店と管理栄養士が連携して考えた一人ひとりの健康を応援するメニューを市内協力店舗で提供。
- 3 市内事業所と連携：働く世代への取組みとして、市内事業所を



▲運動・食生活応援メニューのパンフレット

対象に健康づくり事業を展開し、従業員を含めた事業所全体の健康意識の向上を図る。

- 4 「トマトde健康プロジェクト」：「カゴメ発祥の地」であることから、トマトで健康づくり条例を制定し、トマト給食の日やトマトジュースによる乾杯を推奨。
- 5 医師会・歯科医師会・薬剤師会の3師会との事業協定

#### 取組みの結果

実施から8年が経ち、平均寿命や1人当たりの医療費の抑制など一定の効果が表れているこの事業。羽村市においても健康寿命を伸ばすことや医療費の抑制などの課題は多く、今回、東海市で学んだことを参考に、議会として取り組んでいきたい。



▲トマトジュースによる乾杯を推奨している

# しぎかいカレンダー

## ●3月定例会の予定●

日	月	火	水	木	金	土
			2/19 陳情メ	20	21 議運	22
23	24	25	26	27	28	29
3/1	2	3 本会議	4 本会議	5 本会議	6 予特 (補正)	7
8	9 本会議	10	11 常任委	12 常任委	13	14
15	16 予特	17 予特	18 予特	19	20	21
22	23	24	25	26 本会議	27	28
29	30	31				

- 陳情メ…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
- 議運…議会運営委員会
- 常任委…常任委員会（総務、経済、厚生）
- 予特（補正）  
…一般会計等予算審査特別委員会（令和元年度補正予算）
- 予特…一般会計等予算審査特別委員会（令和2年度予算）

※会議の予定は変更になる場合があります。  
詳細は議会事務局までお問合せください。

## 議会を見よう！知ろう！

### ～次の定例会は3月～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることばかりです。ぜひご覧ください。

- 1 議場で傍聴 ライブで！**  
当日、直接議場へおいでください。
- 2 ケーブルテレビで生中継**  
TCN 多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。
- 3 インターネットで録画中継**  
開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。
- 4 会議録で読む**  
会議終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見ることができます。

羽村市公式サイト

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会  検索



## 編集後記

昨年の暮れに興味深いニュースの放映がありました。板橋区の小学6年生たちが区議会に陳情を提出し、一部を除き採択されたというニュースでした。

放課後サッカーをしていた公園が、ある日突然使用できなくなったことが発端で議会へ陳情したとのことでした。この陳情結果を受けて、板橋区は廃校になった校庭の平日1時間開放等を行ったとニュースは伝えていました。

市議会では、皆様からの、請願・陳情を審議する役割も担っています。

(濱中)

### 【広報委員会委員】

中嶋 勝(委員長)  
印南 修太(副委員長)  
秋山 義徳 梶 正明  
浜中 順 富永 訓正  
大塚 あかね 濱中 俊男

発行/羽村市議会 編集/広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042 (555) 0889  
Tel 042 (555) 1111 (内線412~414、416)



「ぎかいのトビラ」は、再生紙を使用しています。